

《第 31 回中村元東方学術賞授賞理由》

中村元東方学術賞審査委員会で慎重な審議の結果、第 31 回の中村元東方学術賞を下田正弘東京大学教授に授与することに決定致しました。

下田正弘博士（1957 年生）の研究業績の第一は、インドにおける仏教經典の編纂過程の分析を通し、大乘仏教の成立過程を明らかにされたことです。四十本を超える「涅槃經經典群」のなかの「大乘涅槃經」に注目して、漢語訳、チベット語訳、サンスクリット語断片を詳細に比較検討し、現行の「大乘涅槃經」に至る以前の「原始大乘涅槃經」を復元することに成功され、その研究成果は、チベット語訳「大乘涅槃經」の世界で初めての近代語訳として出版されるとともに、『涅槃經の研究』という大部の研究書として公刊されました。

博士の第二の研究業績は、近代仏教学の方法論的反省と、それにもとづく大乘經典研究方法の再検討にあります。この成果は『仏教とエクリチュール』として昨年上梓されましたが、仏教学の領域を超え、人文学の分野全体から高い評価を得ておられます。

博士の第三の研究業績は、デジタル時代における新たな人文学である人文情報学 Digital Humanities の推進です。博士は、1995 年、江島恵教博士の創始された仕事を継承し、『大蔵經』の電子データベース化事業を進め、1 億字を超える漢語の SAT 大蔵經データベースを、2008 年に完成されました。その後情報工学の専門研究者と協働し、SAT データベースを日本の人文学の最先端の知識基盤に成長させました。

下田正弘博士が今後とも仏教研究においても、人文情報学の領域においても、大いなる活躍をされることを期待して、今年度の授賞者として決定した次第であります。